

事業番号	事務事業名	子ども通学路安全対策事業				所管課名	建設部維持管理課	所属長名	中村 浩之
	方向性	1	くらしを守る				係・グループ名	維持第1係	
	重点施策	2	移動しやすく便利なまちをつくる				根拠法令等	—	
	施策方針	4	安心して歩行・通行できる安全な環境の整備				基本事業		
予算科目	会計	01	款	07	項	02	目	03	事業1 事業2 経・臨
	一般会計		土木費	道路橋りょう費	交通安全対策事業費	003	53	臨	予算上の事業名 子ども通学路安全対策事業(政策)

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☒ 単年度繰返し ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度) ☐ 単年度のみ	子どもが安全で安心して通学できるように、地域の方々やPTAなどと連携し、子ども目線での交通安全対策を行う。 佐伯地域と吉和地域にて照明の設置を行う。 (佐伯地域:R2年度～R3年度)、(吉和地域:R3年度～R4年度)	平成18年1月に児童生徒の登下校時の安全対策を総合的・積極的に推進するために、「廿日市市子どもの安全対策推進本部」を設置し、関係機関と連携して安全対策を進めることとなった。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
通学路における交通安全対策施設の整備	→ ア 対策工事	箇所	目標 実績	15 18	15 26	15 23	15	15
	→ イ 交通安全啓発看板等配布	箇所	目標 実績	40 61	40 44	40 44	40	40
	→ ウ		目標 実績					
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
通学路における危険箇所	→ ア 通学路危険箇所改善要望箇所	箇所	見込 実績	— 83	— 109	— 92	—	—
	→ イ		見込 実績					
	→ ウ		見込 実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
通学路における危険箇所の改善	→ ア 通学路危険箇所改善要望箇所	箇所	目標 実績	95 83	90 109	85 92	80	75
	→ イ		目標 実績					
	→ ウ		目標 実績					
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
市内の道路を交通事故に遭わず、安心して歩行・通行できる。	→ ア 市内の道路を安心して歩行・通行できるとする市民の割合	%	目標 実績	76.2 66.6	76.3 63.7	76.4 64.9	76.5	76.6
	→ イ		目標 実績					

3 事務事業の予算・コスト概要

年度		令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	前年度比	令和7年度(予算)
事業費(A) (円)		8,208,480	4,738,110	6,333,513	6,286,765	-46,748	7,100,000
財源内訳	国庫支出金					0	
	県支出金					0	
	市 債					0	
	その他特財					0	
	一般財源	8,208,480	4,738,110	6,333,513	6,286,765	-46,748	7,100,000
業務延べ時間 (時間)		176	168	176	176	0	
人件費(B) (円)		772,000	716,000	768,000	780,000	12,000	0
トータルコスト(A+B)		8,980,480	5,454,110	7,101,513	7,066,765	-34,748	7,100,000
主な支出項目			令和6年度(決算)		備考		
消耗品			287,365	円	反射電柱幕 28枚 外		
子ども通学路安全対策工事			5,999,400	円	市道中道線外2路線転落防止柵設置外工事 外8件		
				円			
				円			

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
通学路における安全意識が高まっているとともに、要望内容も多様化している。	要望のハード整備が困難な箇所には、関係課と連携し、巻付看板やシールの配布等を行っている。	各学校からグリーンベルトや路面標示の設置など多くの要望が寄せられる。

5 事業評価(令和 6 年度決算の評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 結びついている	理由 説明	道路を安心して歩行・通行できると思う市民の割合、改善要望箇所はほぼ横ばい傾向であり、より効果的な対策を検討・実施する必要がある。
	②市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せるとはできないか。)		
有効性 評価	☐ 見直し余地がある ☒ 妥当である	理由 説明	市が管理する道路付属施設の整備であり、妥当である。
	③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 適切である	理由 説明	改善要望箇所を対象に事業を実施しており、適切である。
効率性 評価	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)		
	☒ 向上余地がある ☐ 目標水準に達している	理由 説明	多くの改善箇所がある中で、早急な対応が必要なものなど、優先順位を付けて計画的に実施している。
	⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)		
公平性 評価	☐ 影響がない ☒ 影響がある	理由 説明	廃止・休止の場合、通学路危険箇所の解消は困難である。
	⑥類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)		
	☐ 改善余地がある ☒ 改善余地がない	理由 説明	既に道路維持管理事業、交通安全対策施設整備事業等との連携により、成果を向上させている。
公平性 評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)		
	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	ソフト対策での対応を提案するとともに、必要最小限の整備を検討・実施している。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)		
公平性 評価	☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない	理由 説明	必要最低限の人員により事務を行っており、削減の余地はない。
	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)		
	☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である	理由 説明	廿日市市通学路安全推進プログラムに基づき、関係機関の連携強化を図り、廿日市市全域の通学路の安全確保を図っている。

6 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性☒ 適切☐ 見直しの余地有り B 有効性☐ 適切☒ 改善の余地有り C 効率性☒ 適切☐ 改善の余地有り D 公平性☒ 適切☐ 見直しの余地有り			改善要望箇所について対策を実施しており、目的妥当性のある事業である。 今後も必要最小限の整備で最大の効果が得られるよう対策を検討・実施していく。																						
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																						
☐ 拡充☒ 現状維持 ☐ 目的再設定☐ 改善 ☐ 休止・廃止☐ 完了		今後の改革改善案 今後も危険箇所の実情に応じ、効果的な対策を実施していく。																							
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題			<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (廃止・休止、完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
引き続き、現場の状況をよく確認し理解するとともに、結果に結びつく、より効果的な対策を比較・検討していく。																									